



二宮尊徳

生誕二百年祭

今年、小田原で生れ、全国にその名を知られた偉人である二宮尊徳（金次郎）が生まれてからちょうど二百年になります。本市では、これを記念して二宮尊徳生誕二百年祭を開催し、多彩な行事を実施いたしますので、その概要を紹介します。



二宮尊徳画像

天保13年（1842年）尊徳56歳の夏小田原の画家、岡本秋暉の筆で尊徳生前の唯一の実写によるものである。
袴の紋所は二宮家のもので、紋付は小田原藩主大久保家の紋所をつけている。（県指定重要文化財）



小田原市長
二宮尊徳生誕二百年
記念事業会会長

山橋敬一郎

二宮尊徳（金次郎）は、天明七年（一七八七年）に現在の小田原市栢山に生まれました。尊徳は、若くして両親を失い、自家も没落するなど苦勞いたしました。後に家を再興し、小田原藩主大久保忠真公の厚い信頼も得て、その人生の大半を全国各地の農村等の復興に尽力されました。

また、これらの経験から尊徳独特の原理と方法（報徳仕法）を生みだし、自ら実践して成果をあげるとともに、多くの人々の共感も得て、その考え方は今日もお私達の生活の中に脈々と生きつづけております。

本市では、この尊徳の遺徳を顕彰し、かけがえない遺産として末永く継承するとともに、いわば「まちおこし」の先達ともいえる尊徳の教えを現代に活かし、地域文化の向上と地域産業の振興を図り、活力と魅力あふれる都市としたいと考えております。

また、尊徳生誕二百年祭につきましては、「おだわら21世紀プラン」に掲げられている四大イベントの最初のイベントでもあります。その実施に当たりましては市民・民間団体・行政が一体となって、心ふれあう記念事業としてまいりたいと願っております。

本年二月には、多くの分野の方々のご参加を得て四十一団体で構成する「二宮尊徳生誕二百年記念事業会」が発足いたしましたので、今後はさらにみなさんと協働してこの記念祭を盛り上げていきたいと考えております。

そして、この期間中は、全国各地から訪れる多くの人たちに、尊徳の生誕地であり、歴史と文化に培われた小田原の魅力にふれていただくことを通して、小田原を全国にアピールしていきたいと考えております。

つきましては、この尊徳生誕二百年祭が盛大で有意義な記念事業となりますよう、市民のみなさんのご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

記念事業

の4大イベントの一つに掲げ
三者さんとともに祝い、記念と
専断計画いたしました。ここで
いたします。
い、これから細部の検討をする
の協力と参加をお願いいた



5月

小田原北條五代祭り

期間 5月3日(日)～5日(火)
鎧、甲に身をかためた北条五代の騎馬武者や
曾我十郎・五郎行列等に、今年は小学生による
金次郎行列も加わり、総勢約2000名が市中に繰
り出し、街中がお祭り気分一色で賑わいます。

6月

水稻栽培体験学習

期間 6月～10月
あまって捨てられた稲の苗を活用
して、米の収穫したという、史実に
ちなんで、尊徳ゆかりの捨苗場付近
の水田を利用し、児童が田植えから
収穫までを体験学習します。



「トンガリ」という天秤棒てんひんぼうのような
棒の両端に薪の束を刺して運んでい
る金次郎です。

9月 ～10月

ちょうちん特別展

期間 9月4日(金)～10月11日(日)
場所 小田原城天守閣
小田原ちょうちんをはじめ全国各地のちょうちんを
陳列し、「灯りの歴史」として時代を追って現代に至る
までの灯りに関する器具類を展示します。

夏まつり

日時 7月25日(土)・26日(日)
毎年恒例で実施している小田原ちょうちん
踊り大会や盆踊り大会に加え、今年はみこし
も繰り出し祭りを盛り上げます。
また、こどもたちの作ったかかしのコンク
ールも開催されます。



9月4日(金)～10月11日(日)
常木門及び報徳博物館
はつわる貴重な書物、遺品、肖像類等
を、尊徳の生い立ちから晩年までをわ
かす、尊徳の人間性や業績を紹介いたし

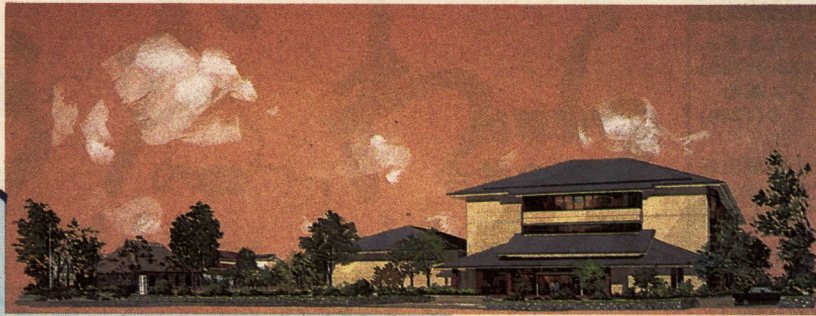
記念・協賛事業スケジュール

記念事業実施期間
昭和62年4月～63年5月

実施予定時期	事業名	実施予定場所等
4月3日～7日	桜まつり (尊徳風船だより)	城址公園
5月3日～5日	小田原北條五代祭り (金次郎行列、尊徳風船だより)	城址公園
5月	小田原市民とNHKのつどい	中央公民館
6月	神奈川の民謡 はつらつスタジオ くらしの一分メモ 歴史講演会	市民会館 富士見小学校 商工会議所
6月～10月	水稲栽培体験学習	神奈川新聞
7月	新聞の連載 テレホンカードの発行 中学生の主張発表大会 夏まつり	市民会館 城址公園その他
7月25日・26日	尊徳読書感想文コンク ール(かかしコンクール、みこしの参加、尊 徳風船だより)	市民会館
7月～11月	尊徳のしおり配布	常盤木門 報徳博物館 小田原城天守閣
9月	尊徳遺業展	市民会館
9月4日(陰暦7月23日)	尊徳生誕	市民会館
9月4日～10月11日	ちょうちん特別展 記念論文集の発行	城内スポーツレク リエーション広場
9月12日～10月11日	えいど小田原(江戸時 代)のちまみ えいど小田原協賛バザ ール	市民会館
9月20日	全国報徳大会 記念映画の製作	市民会館
9月25日～10月4日	小田原全商店街大感謝 祭	今市市へ
10月下旬	尊徳市民交流旅行会 子どもフェスティバル	市民会館
11月3日	さかなまつり	市民会館
11月7日・8日	青果まつり	青果市場
11月15日	農業まつり	城内スポーツレク リエーション広場
11月22日・23日	梅まつり菓子展示会	市民会館
63年2月19日～21日	報徳集書目録刊行	酒匂川流域
63年3月	尊徳マラソン	市民会館
63年3月	市民文化祭特別公演	市民会館
63年3月～5月	尊徳記念館開館記念事 業	市民会館



63年



(完成予想図)

尊徳記念館の改築

完成予定 63年3月
尊徳生誕二百年を記念して、尊徳記念館の改築を行っています。この記念館は、地下1階、地上3階建て、延べ面積3910㎡で、尊徳の遺品等の展示室をはじめ、研修施設として図書室、視聴覚室等が配置されるほか宿泊室もあり、青少年からお年寄りの方まで幅広くご利用いただけます。

尊徳マラソン

日時 63年3月
場所 酒匂川流域
酒匂川の堤防には尊徳が植えた松樹が深い緑をたたえています。このゆかりの地で健康マラソンを開催します。

市民文化祭特別公演

日時・場所については調整中
尊徳にちなんだ創作劇を上演し、尊徳が活躍した往時をしのぶとともに、歴史と文化のまち小田原の創造をうたいあげます。

二百年祭

おだわら21世紀プランから、尊徳生誕二百年を記念するためのいろいろな事業は、事業の概要を紹介いたします。まだ個々の事業について、ものもありませんが、みなさんお待ちします。

え〜と小田原

(江戸時代の小田原のまちなみ)



9月 〜10月

え〜と小田原

(江戸時代の小田原のまちなみ)

え〜と小田原協賛バザール

期間 9月12日(土)〜10月11日(日)
場所 城内スポーツレクリエーション広場
会場では、尊徳が活躍した江戸時代の小田原にタイムスリップしたように、通り町脇町からなる当時の城下町の一部を模したまちなみがつくられ、往時の文化を楽しみながら回顧することができます。また、イベントステージでは多彩な催物が行われます。
また、え〜と小田原に併せて、地場産業の紹介と商品のPRを兼ねた大バザールが開催されます。

さあ
一緒に
参りましょ

尊徳遺業展

期間 9月
場所 尊徳生誕地
二宮尊徳は、多数展示するだけでなく、触れられます。

'87
小田原市民と
NHKの
つどい

神奈川の民謡

FM公開録音

5月6日 午後6時から
中央公民館

くらしの一分メモ

〜小田原編〜

5月16日 午後2時から
富士見小学校体育館

はっらっスタジオ505

ラジオ公開録音

5月8日 午後6時から
市民会館

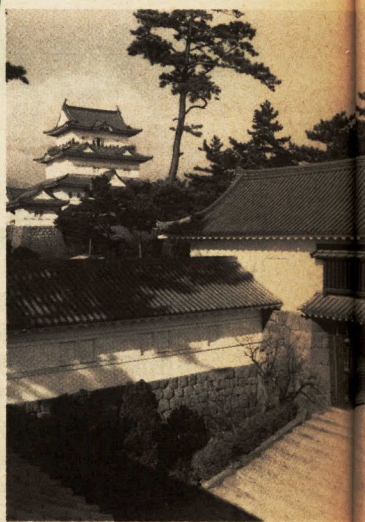
歴史講演会

—東海道小田原の江戸模様—

5月23日 午後1時30分から
商工会議所ホール

ニューメディア展

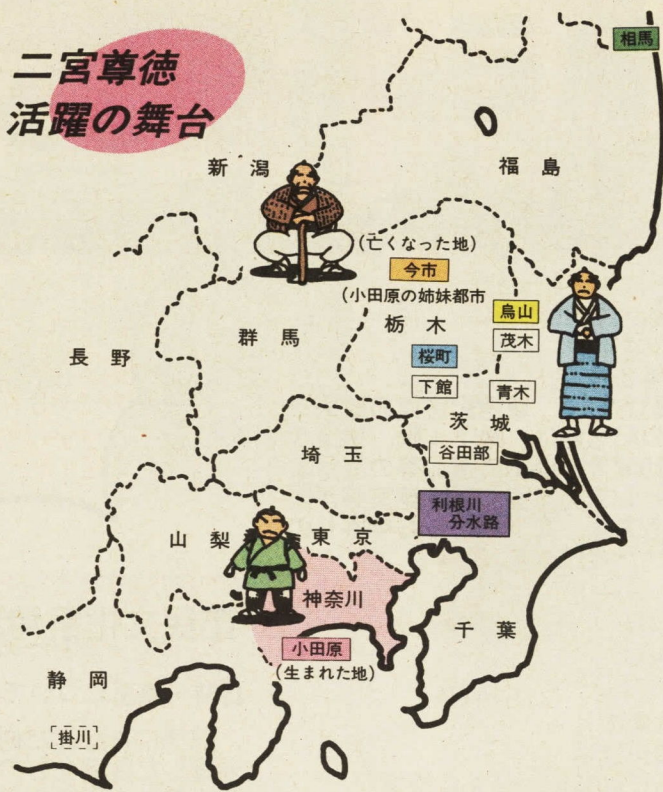
衛星放送・文字放送、緊急警報放送システムの紹介
5月6日(水)〜5月8日(金) 市役所2階市民ホール



尊徳略年譜 (年齢は数え年・月日は陰暦)

西暦	年号	年齢	尊徳主要事項	参考事項
1787	天明7年	1	7月23日(太陽暦9月4日)相模国足柄上郡栢山村(現在の小田原市栢山)で父利右衛門、母よしの長男として誕生。	天明の大ききん(1783~1789) フランス革命(1789)
1791	寛政3年	5	酒匂川の氾濫で二宮家の田畑流失。	伊能忠敬蝦夷地を測量(1800)
1800	12年	14	9月26日父利右衛門死す。	ナポレオン帝位につく(1804)
1802	享和2年	16	4月4日母よし死す。酒匂川氾濫、二宮家離散、金次郎は伯父万兵衛にあずけられる。	リンカーン生(1809)
1803	享和3年	17	菜種の栽培や捨苗栽培から「積小為大」の法則をさとする。	マルクス生(1818)
1806	文化3年	20	独立し二宮家再興に着手する。	ベートーベン没(1827)
1812	文化9年	26	小田原藩家老、服部十郎兵衛家に奉公する。	天保の大ききん(1833~1836)
1818	文政元年	32	服部家の財政建て直しに着手する。小田原藩主、大久保忠真から表彰される。	大塩平八郎の乱(1837)
1820	文政3年	34	岡田波子と再婚する。斗樹の改良や小田原藩士のための五常講を創設する。	アヘン戦争(1840~1842)
1822	文政5年	36	小田原藩から宇津家桜町領(現在の栃木県二宮町)の建て直しを命ぜられ、一切の財産を処分し、翌年一家をあげて桜町へ移る。	エジソン生(1847)
1829	文政12年	43	桜町の建て直しが進まず、成田山新勝寺に籠り21日間の断食修行を行う。	ペリー浦賀に来航(1853)
1831	天保2年	45	桜町領第1期10年の仕法を完了する。	日米和親条約(1854)
1836	天保7年	50	烏山藩(現在の栃木県内)のききんに苦しむ人々を救う。	
1837	8	51	小田原藩のききんに苦しむ人々を救う。大久保忠真死す。	
1838	9	52	小田原藩仕法に着手する。	
1842	13	56	幕府御普請役格に任ぜられ、利根川分水路を調査する。	
1844	弘化元年	58	日光神領荒地開拓調査を命ぜられ、富国方法書(仕法雛形)を作成する。	
1845	2	59	相馬藩(現在の福島県内)仕法を開始する。	
1853	嘉永6年	67	日光神領建て直しのため日光へ転任する。4月病に伏す。	
1856	安政3年	70	2月御普請役に任ぜられる。10月20日(太陽暦11月17日)下野国今市(現在の栃木県今市市)にて永眠する。	

二宮尊徳 活躍の舞台



尊徳は小田原ばかりでなく図のとおり多くの地で農村復興等の事業にあたりました。その遺業は、さらにその弟子によって継承され北海道の札幌をはじめとする各地において事業が実施されています。

二宮金次郎というと、薪を背負い本を読みながら歩いている銅像を思い浮かべる人が多いと思いますが、『報徳仕法』と呼ばれた各地の農村復興、財政建て直しに果たした功績については、必ずしも十分知られていないようです。

生誕二百年を迎える今年こそ、本市が生んだ偉大な農村指導者、思想家であり、まちおこしの先達ともいえる尊徳を改めて見直すいい機会だと思います。

二宮尊徳(金次郎)の遺業



小田原に今なおのこっている二宮尊徳の遺跡。あなたも訪ねてみませんか



酒匂川の松並木(坂口堤付近) 13歳の尊徳が、子守をして得たお金で松苗を譲りうけ、酒匂川の堤防補強のために植えられた松



尊徳誕生の家 尊徳の誕生した位置に移築復元された生家です。建築年月日は明確ではありませんが尊徳の祖父銀右衛門が寛保2年(1742)に独立した際に建てられたものといわれています。昭和38年3月5日県指定重要文化財

尊徳一口メモ

『報徳仕法』とは?

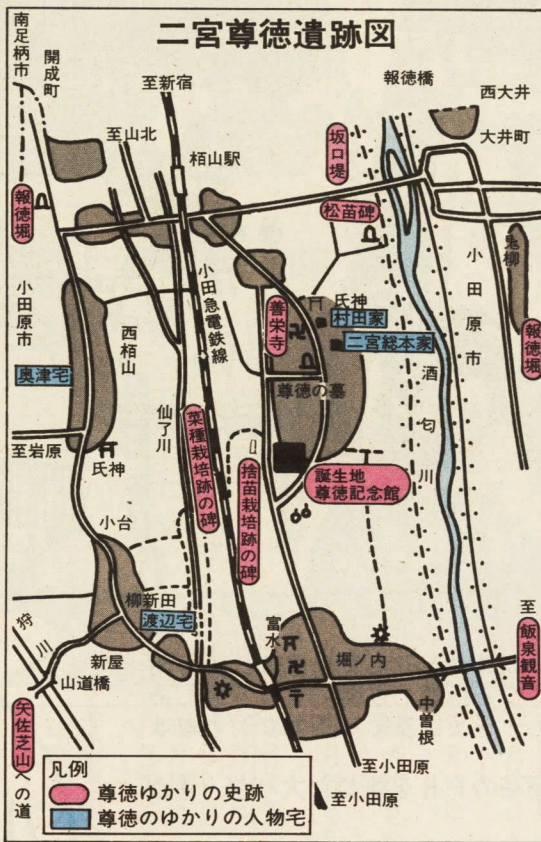
尊徳が行った“世直し”すなわち一家の負債整理から農村復興に至るまでの方法を『報徳仕法』と言った。いわば赤字財政再建のための方法ともいうものです。

その中心的な柱は、「勤労」を重んじ、収入に応じて支出に限度を設けて(=「分度」を建てる)生活し、それによって余剰をうみだし、将来のために譲り残し、子孫、社会のために譲るという「推譲」の三要素であり、これを誠実に実行するのが報徳の道であるとしている。

尊徳は、このような仕法を長期的な見通しと、科学的な計算に基づいて計画し、その実行によって農村や人々は貧困から解放されると考えた。

…なお、尊徳について、もっといろいろなことを知りたい方は次の所へお出かけください。

- 小田原市尊徳記念館(昭和63年5月開館予定)
(市内栢山2064 ☎36-0535)
- 小田原市立図書館
(市内城内7-17 ☎24-1055)
- 報徳博物館
(市内南町1-5-72 ☎23-1151)



●記念事業の推進体制

二宮尊徳生誕二百年記念事業会 (会長 小田原市長)

(順不同)

- 小田原市(市・市議会)
- 神奈川県
- 小田原市自治会総連合
- 小田原商工会議所
- 小田原青年会議所
- 小田原市商店街連盟
- 小田原市観光協会
- 小田原市地場産業振興協議会
- 小田原北條五代祭り実行委員会
- 夏まつり実行委員会

- 農業まつり運営委員会
- 青果まつり実行委員会
- さかなまつり開催協議会
- 曾我梅まつり実行委員会
- 梅まつり菓子展示会開催協議会
- 小田原市農業協同組合
- 早川農業協同組合
- 小田原市森林組合
- 小田原市校長会
- 小田原市文化団体連絡協議会

- 小田原市地域婦人団体連絡協議会
- 小田原市青少年指導員協議会
- 小田原市子ども会連絡協議会
- 小田原市体育協会
- 小田原市社会福祉協議会
- 小田原市民生委員・児童委員協議会
- 小田原市老人クラブ連合会
- 東日本旅客鉄道株式会社
- 東海旅客鉄道株式会社
- 小田急電鉄株式会社

- 箱根登山鉄道株式会社
- 伊豆箱根鉄道株式会社
- 横浜銀行
- 駿河銀行
- 小田原信用金庫
- 全国報徳団体連絡協議会
- 大日本報徳社
- 北海道報徳社
- 報徳福運社
- 一円融合会
- 報徳実行委員会